

7-6

新たな音楽プログラムへの取り組み

～音楽がつなぐ一期一会～

音楽プログラム

アクティビティー

台東区立 みのわ高齢者在宅サービスセンター

発表者：相談員 手塚 収・伊藤 豊久

所在地：台東区三ノ輪 1-27-11

TEL：03-5603-2245

E-mail：zai-mino@bz03.plala.or.jp

FAX：03-5603-2240

URL：http://minowa-welfare.web.infoseek.co.jp/

今回の発表の施設
またはサービスの
概要

台東区社会福祉事業団が母体であるみのわ高齢者在宅サービスセンターは、三ノ輪福祉センター内にあり、通所介護・認知症対応型通所介護・小規模通所介護の三つの事業を展開しております。

＜取り組んだ課題＞

アクティビティープログラムを展開してきたが、利用者の満足・ニーズ・年代の変化などにより、幅広いメニューの必要性を感じ、小規模通所介護にて、新たな音楽プログラムの構築に取り組んだ。

＜具体的な取り組み＞

①現状の音楽プログラムの検証。

- ・音楽レク（歌・楽器演奏）
- ・民謡・三味線の会
- ・歌声喫茶（利用者参加型）
- ・カラオケ

②高齢社会の将来像を踏まえた通所介護プログラムの見直し

- ・地域交流
- ・生きがいメニュー
- ・積極的な社会参加（ネットワーク）
- ・利用者主体のプログラム設定
- ・魅力ある介護現場の創設

③音楽プログラムの計画

個別の希望や、グループ内での意見をもとに発表の場を設定し、プログラム計画（短期・長期）を作成。

④目標の設定

- ・利用者からの意見をもとに、発表の場の1つとしてみのわ福祉センターにて実施される、コンサート出演を目標にプログラムを展開。

④みのわ音楽祭への出演

（地域交流型行事として年間6回実施されるボランティアアーティストによる100～200人規模の音楽祭）

＜活動の成果と評価＞

サービス利用者

- ・プログラム参加への積極性や意欲が向上した。
- ・デイ来所時だけでなく、次回来所時の楽しみなど、在宅生活へも影響をあたえ、継続的なプログラムとしての効果が見られた。
- ・同じ目標をもつことにより、利用者間の相互作用が生まれ、グループ内での役割や、グループ内の意識が自然に高まった。
- ・目標を達成することにより、そのことが自信につながり日常生活や、デイでの様子にも積極性が生まれた。

職員

- ・日々のプログラム活動に対する意識が高まった。（何のため、誰のためのプログラムか）

その他

- ・ボランティア、地域の機関からの問い合わせが入り新たな地域との接点が生まれた。

＜これからの取り組み＞

- ・日々の音楽プログラムの充実と音楽療法への取り組み
- ・さらなる地域行事への参加
- ・音楽を通じた新たなネットワーク作りとして、併設特養・在宅サービスセンター、包括支援センター、ボランティアを交えた音楽委員会の設置

【メモ欄】